

# 移動支援機器に対する高齢者の心理的抵抗感

—福祉用具専門相談員に対する調査結果から—

○安心院朗子 西村実穂 西館有沙 水野智美 徳田克己  
 (目白大学保健医療学部) (東京未来大学子ども心理学部) (富山大学人間発達科学部) (筑波大学医学医療系)

KEY WORDS: 高齢者 移動支援機器 心理的抵抗感

(目的)

これまでに行ってきた高齢者自身がもつ機器に対する心理的抵抗感(以下、抵抗感)に関する調査(安心院・西村・西館・水野・徳田, 2015)より、日常生活動作を遂行するための能力が高いと車いす、ハンドル形電動車いすに対する抵抗感が高いこと、また、機器を日ごろ見かけるか否かによっても抵抗感に違いがあることが明らかになっている。機器を使用すべき高齢者が使用しないことは、外出頻度の減少、外出範囲の狭小化につながりかねない。そのため高齢者の機器に対する抵抗感を低めていく必要がある。

これまで高齢者や一般市民を対象とした機器に対する抵抗感についての調査を行ってきた。今回は福祉用具専門相談員(以下、相談員)の視点からみた高齢者の抵抗感について明らかにしたい。機器を提供する際の問題、また、提供する側の意見を集約することで、高齢者の抵抗感を低めていくための方策を検討する資料を得たい。本稿では、相談員が利用者の機器への抵抗感があるがゆえに、使用を拒まれた経験があるか、抵抗感を低めるための機器の改善すべき点は何であると考えているのかについて質問紙調査を行った結果を報告する。

(方法)

(1) 調査対象者: 福祉用具を取り扱う事業所(30か所)に勤務する相談員394名である。

(2) 手続き: 無記名自記式の質問紙調査を実施した(回収率65%)。福祉機器販売業者より全国の福祉用具を取り扱う事業所を紹介してもらった。事業所の責任者を通して職員に配布してもらい、回答後各事業所で収集し、郵送してもらった。調査は2014年12月~2015年3月に実施。

(3) 質問項目: 属性(5項目)、機器使用を拒まれる頻度(1項目)、改良点(1項目)、機器導入の際に困ること(1項目)の全8項目であった。

(結果と考察)

(1) 機器導入の際に困ること

機器導入の際に困ることについて選択式で尋ねた結果を表1に示した。「使用方法を理解してもらえない(43%)」に次いで「選定した機器の利用を拒む(39%)」と回答した者が多かった。相談員は、ケアマネージャーなどと相談して、一人ひとりの身体の状態、生活スタイルを考え機器を提供している。しかし、高齢者が拒むために適切な機器を提供できていないケースがあることがうかがえた。

(2) 機器使用を拒まれる頻度

杖、歩行車、シルバーカー、普通型車いす(以下、車いす)、ハンドル形電動車いす(以下、ハンドル形)の5つの機器を導入する際に拒まれる頻度について「とてもある」から「まったくない」までの5件法で尋ねた。「とてもある」「ある」と回答した割合は、歩行車が29%(393名中114名)と最も多く、次いでシルバーカーが20%(77名)、車いすが15%(57名)、杖が11%(42名)、ハンドル形が10%(37名)であった。Ajimi(2012)による一般市民を対象とした調査によると、車いすへの抵抗感が最も高く、ハンドル形、歩行補助車、杖の順に抵抗感が低まることが

明らかにされている。しかし、本調査の結果では、車いすよりも歩行補助車(歩行車およびシルバーカー)の使用を拒む割合が多かった。相談員が高齢者へ機器の導入を行う場合、身体に何らかの障害があるケースがほとんどである。車いすを使用する段階になると、徐々に変化する身体と向き合いながら、自分の老いや状態を受け入れていると考えられる。歩行補助車を使用するか否かにおいては、自分の身体の状態を認めるまでに至っていない、老いの受容の入り口にさしかかる段階であると推察される。そのため、歩行補助車を使用することに拒む割合が多かったのではないかと考えられる。

(3) 各機器の改善点

相談員が考える高齢者の抵抗感を低めるための各機器の改善点について選択式で回答した結果を表2に示した。各機器において、「おしゃれにする」と回答した者が多かったことから、見た目が魅力的になることが高齢者の抵抗感を低めることにつながると考えていると推察される。ハンドル形においては、安全性への実証をすべきであると考えている者が多かった。

表1. 機器導入の際に困ること(複数回答)(N=394)

使用方法を理解してもらえない	43% (172名)
選定した機器の利用を拒む	39% (157名)
利用者が望む機器がない	37% (146名)
利用者の生活環境に適した機器がない	36% (143名)
利用者の家族が選定した機器の利用を拒む	35% (141名)
身体の状態が複雑で選定することが難しい	32% (127名)
選定した理由を理解してもらえない	17% (69名)

表2. 機器の改善点(複数回答)(N=349)

	杖	歩行車	シルバーカー	車いす	ハンドル形
①*1	68%	62%	67%	46%	28%
②*1	40%	34%	33%	26%	14%
③*1	36%	30%	33%	22%	11%
④*1	7%	50%	43%	35%	48%
⑤*1	1%	3%	3%	7%	1%
⑥*1	2%	35%	24%	28%	19%
⑦*1	21%	36%	37%	36%	61%

\*1: ①おしゃれにする ②色を増やす ③柄を増やす  
 ④扱いを簡単にする ⑤大きくする ⑥小さくする  
 ⑦安全であることを実証する

(文献)

安心院朗子・西村実穂・西館有沙・水野智美・徳田克己(2015) 歩行に支障がある高齢者の移動支援機器への心理的抵抗感3, 日本特殊教育学会第53回総会。

Ajimi Akiko (2012) Relation between awareness about mobility devices and psychological resistance for them, The Asian Journal of Disable Sociology, 12, 51-60.

(AJIMI Akiko, NISHIMURA Miho, NISHIDATE Arisa, MIZUNO Tomomi, TOKUDA Katsumi)